

実践

ソーシャルスキルトレーニング (SST) を活用した日本語教育の授業づくり
—学齢後期からの「自立の力」を蓄えるために—

前嶋深雪 (相模女子大学 兼任講師)・小林和真 (神奈川県立高等学校教諭)

- A 発表題目: ソーシャルスキルトレーニング (SST) を活用した日本語教育の授業づくり
—学齢後期からの「自立の力」を蓄えるために—
- B 実践の場の特徴: 定時制高校 日本語母語の生徒と日本語母語でない生徒の双方が在籍する1年次クラス
- C 実践の目標: 学齢後期の自立を見すえた言語運用のためには、言語の学びとともに社会文化もあわせて習得しなければならない。本実践では、学びの過程の中に、ソーシャルスキルトレーニング (SST) が含まれる日本語教育の授業づくりを目標とする。
- D 具体的な実践の内容とその過程: 本実践で用いる SST は、訓練の要素をできるだけ排除し、社会文化とともにあるソーシャルスキルについて、言語運用の基盤となっている考え方を導いていく構成とした。ソーシャルスキルのテーマを挙げ (例えば「断る」「配慮する」等)、言語運用場面での言動や考え方が、社会文化とどのようにかかわっているのかという問題解決的な活動を通して、日本語の枠組みとしての言語運用を明らかにしていく展開を持つ。この考察を、日本語母語の生徒と日本語母語でない生徒と一緒に考え、導いていく過程を通して、双方の生徒に自立の力となるソーシャルスキルの学びがある授業展開を構築する。
- E 結果と考察 (目標の達成度・課題): 授業展開をする主担当が1人 (メイン)、日本語教育教員・国語科教員が1人ずつ (サブ) の合計3人で、授業実践を行った。日本語母語でない生徒はソーシャルスキルの言語運用場面で社会文化についての理解の深まり、日本語母語の生徒はソーシャルスキルについての新たな発見となったことがコメントシートより把握できた。このたびの実践では、日本語母語でない生徒のソーシャルスキル獲得の尺度を数値化する具体項目一覧を用意した。今後は、この尺度を日々の日本語教育とあわせて活用していくことが課題である。

※本研究は「公益財団法人 北野生涯教育振興会」の助成を受けています。

【引用文献】 特になし